

主催:釧路市立湖畔小学校 様

学校の先生に ICT 支援員をしていただきながら実施しました

冬休み期間中、18名の方々に参加していただき開催！

◆冬休み期間中の1月16日(火)、釧路市立湖畔小学校(校長:中嶋治代)様(<http://www.kushiro.ed.jp/kohan-e/htdocs/>)においてプログラミング教育研修会を開催いたしました。冬休み期間中にも関わらず、校長先生をはじめとして多くの先生方が大変熱心に取り組んでくださったことに心より感謝いたします。また、プログラミング担当の先生も「ICT支援員」となって、躓いている先生のサポートをしてくださいました。「ICT支援員」の存在は大変心強いものがありました。ICTを使って教えることは、大人である先生方ですら、大変難しいことを実感します。これが子供たちを相手に日々教えるとなると、担任の先生以外にICT活用に関してサポートする方が必要だと湖畔小学校のプログラミング担当の先生の動きを見ながら今一度再認識いたしました。



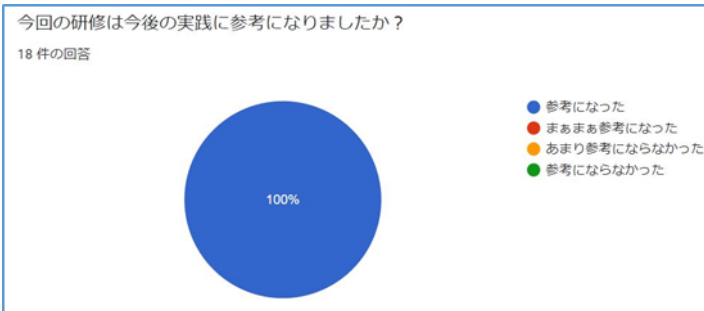
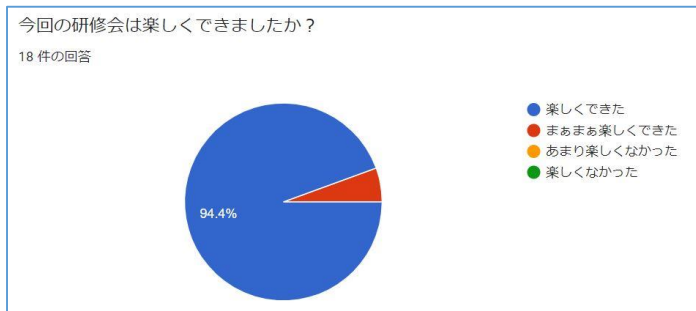
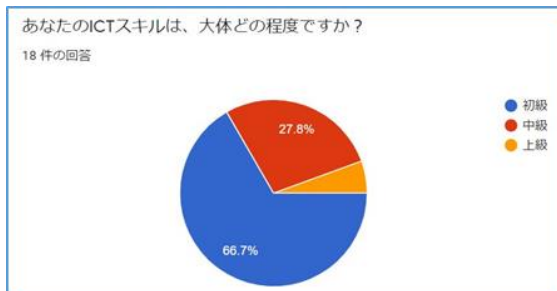
釧路市立湖畔小学校プログラミング研修会の概要

- 【場 所】 釧路市立湖畔小学校 4年生教室
【日 時】 2020年1月16日(火)午前10時00分～12時00分
【参加者】 釧路市立湖畔小学校 16名 釧路市立清明小学校 2名
合計18名
- 【内 容】
- ・プログラミング教育の授業づくり
 - ・プログラミング教育の教材について ※マイクロビット、信号機キット



◆釧路市内の小学校における新年度採択教科書は、算数が東京書籍、理科が教育出版となっています。そこで、算数では東京書籍のサイト Edu Town やプログルを活用しながら研修を深めました。ICTスキル中級以上の先生方もけっこういらっしゃる、隣同士で教え合うことで笑顔がこぼれる研修になりました。一人一台の環境になったとしても、隣同士で教え合ったり、学び合ったりするという「ペア学習」は、これからも必要な教え方スキルだと思います。

◆理科では、マイクロビットを活用して信号機の模型を製作することに挑戦しました。ただし、いきなりマイクロビットで信号機を製作することはハードルが高いので、総合的な学習の時間等を活用して、まずはマイクロビットに慣れることの体験を取り入れました。



◆研修会終了後、いつものようにアンケートを取らせていただきました。結果はグラフのようになりました。大変好評だったことがわかります。特に「今後の実践に参考になりましたか？」には、参加者全員が4段階評価の最高レベル「参考になった」と回答していただきました。

「2時間の研修が短く感じました！」

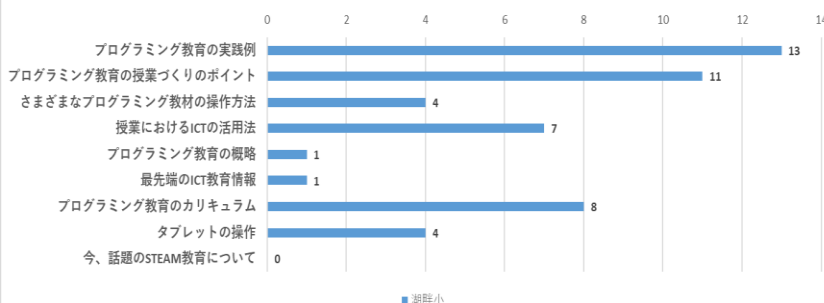
◆アンケートには、自由記述の欄も設け、様々なご意見等をいただきました。その全ての回答が下の通りとなっています。

【参加者のご意見・ご感想】

- 1 難しかったけど、楽しかったです。苦手な分野なので、基本操作をもっと学びたいです。
- 2 初めての機器を使つての研修、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 3 今後の実践に役立ちました。授業事例を丁寧に教えていただけたことがよかったです。ありがとうございました。
- 4 親切に教えていただきありがとうございました。気軽にクラスで授業に使えるようになると良いですね。自分で考えて組み立てていく力が必要だと思いました。
- 5 初心者にもとてもわかりやすく、楽しく学べました。忘れないうちに復習します。得意な子と、苦手な子の差が広がるような気がしました。どの子にとっても意味のある授業にするのが難しいなと思いました。
- 6 実際に使うことができ良かったです。ありがとうございます。
- 7 楽しかった
- 8 実際にプログラミングを様々なキットを使いながら体験でき、大変勉強になった。
- 9 実際に操作することができたので大変参考になりました。いっぺんには無理ですが、少しずつ環境を整えられればいいなと思います。ありがとうございました
- 10 2時間の研修が短く感じ、とても楽しくわかりやすい研修でした。これからの学びを体験できて実のある研修をありがとうございました。
- 11 様々なプログラミングの教材に触れることができ、こどもの目線で考えることができました。子供たちの方が先に覚えそうなので、自分がついていくのが大変だと感じています。
- 12 マイクロビットの仕組みをもっと知りたいと思いました。
- 13 とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 14 ありがとうございました。(他2名)



【2019】今後どのような研修に参加してみたいですか？ ※複数回答あり



1人1台の環境実現に向けて

◆弊社で実施している研修会は、必ずお客様のニーズをお聞きしています。どのような研修会を望まれているのかを把握した後で、体験を柱とした研修会になるようにして、すべての参加者の方々から満足を得られるようにしております。研修会を希望される自治体・学校様がありましたら、遠慮なく申し込んでいただければと思います。また、プログラミング教育だけでなく、1人1台の端末環境になった場合、どのようなICT活用があるのかも、できるだけ具体的な研修会になるように取り組んでまいります。

■昨年末、文部科学大臣から右のようなメッセージが発出されました。もう既にご承知かと思いますが、紹介しておきます。タイトルは「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」です。いよいよ時代は大きく動き出すという印象を受けます。

子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて ～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～ 「文部科学大臣メッセージ」

12月13日に閣議決定された令和元年度補正予算案において、児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれました。

Society 5.0時代に生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。

1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」であり、特別なことではありません。これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことにより、これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。

また、1人1台端末の整備と併せて、統合型校務支援システムをはじめとしたICTの導入・運用を加速していくことで、授業準備や成績処理等の負担軽減にも資するものであり、学校における働き方改革にもつなげていきます。

忘れてはならないことは、ICT環境の整備は手段であり目的ではないということです。子供たちが変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していく必要があります。その際、子供たちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。

このため、文部科学省としては、1人1台端末環境の整備に加えて、来年度から始まる新学習指導要領を着実に実施していくとともに、現在行われている中央教育審議会における議論も踏まえ、教育課程や教員免許、教職員配置の一体的な制度の見直しや、研修等を通じた教員のICT活用指導力の向上、情報モラル教育をはじめとする情報教育の充実など、ハード・ソフトの両面からの教育改革に取り組みます。

今般の補正予算案は、すでに児童生徒3人に1人という地方財政措置で講じたICT環境整備に取り組んできた自治体、またこれから着実に整備に取り組もうとする自治体を対象に、1人1台端末とクラウド活用、それらに必要な高速通信ネットワーク環境の実現を目指すものです。そして、この実現には、各自治体の首長の皆様のリーダーシップが不可欠です。

この機を絶対に逃すことなく、学校・教育委員会のみならず、各自治体の首長、調達・財政・情報担当部局など関係者が一丸となって、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に取り組んで頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

令和元年（2019年）12月19日
文部科学大臣 萩生田光一